

【私の趣味】

「写真」との関り

山下 英生

私が中学生のころ、22歳年上の兄が写真を撮っているのを見て興味を持ち始めました。当時は、写真作品を作るために、撮影をするのが目的ではなく、カメラのメカニズムに興味があり、フィルムへの露光、現像、暗室での黑白写真の焼付の作業が興味の対象でした。広島大学に入学し、写真クラブに入部して、自分の欲しかった一眼レフカメラを購入しました。フィルム現像、プリントの焼付作業などに夢中になっていました。そのうち自分の撮った写真をどこかで発表したくなり、雑誌アサヒカメラのコンテストに応募したら、1っ回きりですが1位になりました。カメラ雑誌に自分の写真が掲載され、喜びを味わわせてもらいました。また、学生時代に広島県美展に応募し入選の知らせを受け、自分は写真が上手なのだ勘違いをしていました。

広島大学に助手として奉職することになり、写真を撮る時間はなくなり、家族写真を撮る程度の写真との関りになりました。その間、日本のカメラメーカーの技術進歩は著しく世界をリードしてきました。露出の自動化(AE)、更にピント合わせの自動化(AF)が進みプロの写真家ですら AE、AF をカメラ任せで撮る時代になってきました。さらに、デジタルカメラの技術進歩のテンポが速くアツという間に、フィルムがなくなる時代になってきました。

広島大学を辞した後も広島工業大学で70歳まで働かせていただきました。このころになるとデジタル一眼レフカメラもプロ仕様の物も充実してきました。思い切ってデジタル一眼レフカメラ一式を揃えました。撮影後の写真処理は、暗室ではなく、明室で、ノートパソコンを使用し、画像処理ソフトを使ってのプリント作業です。非常に楽に作業ができます。

趣味としての写真撮影を開始した直後、正月に書道競書大会を見に出かけ、そこで撮った写真が中国新聞の読者の写真コンテストに運よく3席に入選し、新聞に掲載されびっくりしました。その後、中国新聞社の元映像部長さんが講師をされている写真教室で指導を受けることになりました。写真は、対象物に当たる光を捉え、適切な露出で撮ることが重要であることを学びました。カメラの自動露出(AE)に任せるとデジタルカメラの場合、白飛び(露出オーバーの)部分が生じます。露出の決定をカメラ任せにするのではなく、自分でマニュアルで決定することが肝要です。

今では、月に1~2回の撮影会に教室のメンバーの方と出かけ作品作りに励んでおります。

自分の作品の発表場所は、写真教室のメンバーの皆さんと一緒に写真展(年1回)、地元のメンバーと公民館での年2回の写真展、地元銀行支店のロビーでの年2回の写真展、地元カレー店の店内での写真展(12回/年)、さらに地元近くの老人ホームのロビーに愚作を展示させていただいており、感謝しています。また、76歳の今も健康年齢を上げるべく、筋力を維持して撮影会に出かけたいと思っています。



2013 年
中国新聞読者の写真コンテスト 3席
「書初め大会にて」



2015 年 二科展 広島 入選 「水浴」



2017 年 新広島県美展 入選 「西光を受けて」